

## 新型コロナウイルスワクチン接種について

## 当院の考え方

- 当院に通院している患者様は、基本的に全員接種した方が良いと考えられます。
  - 基礎疾患を持っている方が多く、感染すると重症化しやすいためです。現段階では、インフルエンザウイルスのように特效薬がありません。
  - 市から送られてくるワクチンクーポン券の「その病気を診てもらっている医師に今日の予防接種を受けて良いと言われましたか？」には、「はい」にチェックをして下さい。
  - 当院でも行政の準備が整えば、クリニックでの個別接種をする予定です。
- ワクチンを打つことによって、ワクチンを受けた人が受けていない人よりも、新型コロナウイルス感染症を発症した人が少ないということが分かっています。また、重症化も防げるようです。
  - しかし、感染を防げるかどうかは、まだわかりません。従って、感染していても症状が出ないだけで、他の人に感染を広げる可能性が残っています。感染を防ぐためには、接種後も公共の場ではマスクをする必要があります。
- アナフィラキシーを起こす頻度は、インフルエンザや肺炎球菌のワクチンとさほど変わりません。効果の方が大きいと考えられます。
  - 副反応には注意が必要です。接種後、特に2回目の接種後は30～40%の人に2-3日続く38度の発熱、頭痛、だるさ、腕の痛みが起きます。強い副反応はそれだけ免疫ができている証拠です。インフルエンザ等他のワクチンでも起こります。
  - ワクチンが打てない人は、当日具合の悪い人と、この発熱等の副反応に耐えられないほど体の弱っている人で、基礎疾患によりません。そのため、熱や頭痛が出ても解熱剤を飲んでしのげるよう、スポーツドリンクや解熱剤を予め用意しておいたほうが無難です。また看病の必要から、夫婦は別の日に打った方が良いと思います。
- 新型コロナワクチンは、ウイルスそのものを打つわけではなく、ウイルスのごく一部のタンパク質を作る遺伝情報（mRNA）を注射するため、体内に入るとmRNAはすぐ壊れてしまいます。注射後の、発熱はウイルス感染による症状ではありません。

2021.4.1.

いけだ糖尿病・甲状腺クリニック

院長 池田真人